
当院における在宅血液透析(HHD)のトラブルについて

医療法人衆和会 長崎腎病院

○堀幸一郎 中山美季 宮崎千秋 船越 哲

【背景】

HHD は医療者不在環境での血液体外循環治療となるため、安全性の担保が医療者・患者双方にとって最重要項目となる。今回、当院の事例からHHD におけるトラブルを考察したので報告する。

【目的】

当院におけるHHD 中のトラブル事例を分析する。

【対象・方法】

当院HHD 患者で、2008年～2022年12月までにHHD を施行した32名を対象とした。調査開始時点の平均年齢は54.6歳、平均HHD 歴は4.2年。2008年～2022年12月のHHD におけるトラブル事例を評価し、トラブルに影響する要因を検討した。

【結果】

調査期間で報告があったトラブルは412件で、実施件数24,104回から算出すると約1.7%の確率でトラブルが生じていた。そのうち当日の治療継続困難となった事例は48件であった。トラブルに影響する要因を年齢・HHD 歴・HHD 実施回数・指導期間に設定し相関分析を行った結果、指導に要する期間が長いほど、その患者のトラブル件数が多い結果となった。(p=0.018)

【考察】

今回のHHD におけるトラブル分析では、HHD 指導に時間を要した患者ほどトラブルが多かったことより、このような症例ではHHD 移行後にも医療者によるフォロー回数を増やす必要性が示唆された。